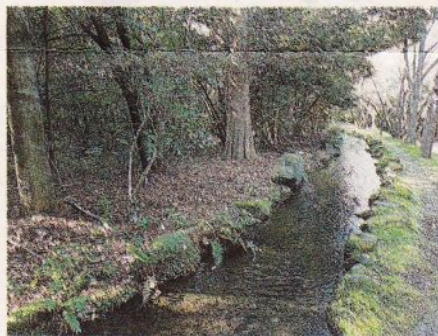


## 2022年 こんにちは 豊かな里山 万博公園計画



現在の万博公園の森

10年後には、万博公園(大阪府吹田市)をフクロウやサンショウウオなどがすむ自然豊かな里山にしようと日本万国博覧会記念機構が「新SAT OYAMA宣言」を発表し、行動計画を策定した。湿地や草地の整備を図り、人の影響をできるだけ排除する立ち入り禁止区域の設定も考える。

万博公園の森は、博覧会終了後、パピリオンがあったアスファルトを砕き、土を盛り植栽された。約40年たち、樹木が成長しオオタカが営巣するなど、一部の生態系は形作られた。しかし、次世代を担う若木は育たず、草地も減少。そこにすむキジやヒバリなども姿を消してしまった。

行動計画は「自立した森再生研究委員会」(委員長・森本幸裕京都大大学院教授)の提言に基づき策定。万博公園を、本当の里山まで行かなくても自然を体感できる「里山の前線基地」と位置づけた。湿地や雑草地をつくり、フクロウやアカネズミ、サンショウウオなど、現在はいない生きものを放し、定着を試みる。

(小林裕幸)